

平成28年度 北海道大学医学部医学科学学位記伝達式告辞

93期の皆さん、卒業おめでとうございます。医学科の課程を修了し、これから医師として活躍される皆さんの輝かしい門出を、医学部教職員を代表して心からお祝い申し上げます。併せてご列席のご家族の皆様にも、ご子息、ご息女のご卒業を心よりお祝い申し上げます。また、ご来賓の医学部同窓会長 浅香正博先生には、ご臨席を賜りありがとうございます。

皆さんもご存じのように、医学と医療の進歩は年々、加速しています。生命科学の飛躍的発展を背景に、医学は生命の神秘と疾患の仕組みを次々と解明し、病の克服に向かって進んでいます。医療現場においては、精度の高い画像診断が一般化し、分子標的薬による治療、内視鏡・腹腔鏡を用いた低侵襲手術、副作用の少ない放射線治療などが広く用いられるようになっていきます。新薬の開発によって、つい最近まで治療の術がなかった疾患の予後が、劇的な改善をみることも稀ではありません。近い将来には、再生医療や個人のゲノム情報に基づいた精密医療が本格的に導入され、ロボット手術も一般化していくでしょう。その一方で、寿命の延長による高齢化と社会構造の変化による少子化が急速に進み、医療費や社会保障費の高騰、労働力人口の減少を招いています。また、医学研究や医療に伴う倫理的問題、医師の地域偏在、診療科偏在等が大きな社会問題になっています。皆さんはこのような社会情勢の中で医師としての第一歩を踏み出すことになります。

皆さんの旅立ちにあたり、私は生涯にわたって学び続けることの重要性を強調したいと思います。皆さんは最新の医学知識を学んで卒業されるわけですが、皆さんが身に付けた知識はいつまでも新しいわけではありません。これから研修医として、あるいは研究者として習得される知識についても同様です。知識はやがて古くなり、時には正しいとされていた事柄が、誤りになってしまうことさえあります。したがって、医学・医療のように進歩が激しい領域に身を置く者は絶えず学ばなければなりません。そうすることによって、初めて、医師としての社会的責任を果たすことができるのです。皆さんの多くはすでに学び続けることの重要性を理解し、その習慣を身に付けておられると思います。しかし、生涯学習、自己研鑽の重要性はいくら強調してもしすぎることはありません。的確な批判力をもって医学・医療の新しい知識・技術をたゆまなく取り入れていくことが、優れた専門医、研究者になるためには不可欠です。このような批判力を養うためには、キャリアの一時に研究の場に身を置くことがきわめて有効です。研究医を目指している方はもちろんですが、医療の第一線で医師として活躍したいと考えている方も、臨床研修を終えてから、ぜひ大学院博士課程に進学して欲しいと思います。

さて、これまで述べてきましたように、医学・医療の進歩はきわめて速いものでありますが、医師に求められるものの中には、医学・医療がいかに進歩しようとも変わらないものもあります。それは、生命に対して畏敬の念を持ち、人間の尊厳を尊重し、悩める患者さんを心身ともに理解し、暖かい人間性と冷静沈着な態度をもって患者さんに接すること

です。これは時代を超え、国を超えて、医師に求められる資質です。皆さんは臨床実習をはじめの際に、ヒポクラテスの誓い十箇条を学んだと思います。そこには、医師の責務として、「生涯を人類への奉仕の為にささげること、よき師、よき先輩を敬愛し感謝の気持ちを持ち続けること、良心と尊厳をもって医療に従事すること、病める人の心身を癒し、健康を守ることを第一の義務とすること、病める人が打ち明けるすべての秘密を堅く守ること、力の及ぶ限り、医師という職業の名誉と高潔な伝統を守り貫くこと」などが挙げられています。現代の社会は複雑化し、医師を取り巻く社会状況には厳しいものがありますが、ヒポクラテスの誓いにある医師の責務を誠実に果たしていけば、皆さんは人々から尊敬と信頼を勝ち得ることができるでしょう。ヒポクラテスは、「病を真に癒すのは、患者の内なる力である」とも言っております。医師は治癒を助けるのであって、最終的に病が癒えるのは患者さん自身の力によるものであるという意味です。これもまた、医学・医療がいかに進歩しても変わらない真実であります。皆さんには、このことを忘れることなく、常に謙虚な気持ちで患者さんに接していただきたいと思います。

北海道大学医学部は2年後の平成31年に創立100周年を迎えます。すでに9,000名を超える方々が巣立ち、同窓生の活躍の場は日本全国のみならず海外に広がっています。本日卒業される103名の皆さんは、4月からこれらの先輩たちと肩を並べて、医療あるいは医学研究の現場で活動を始めることになります。国民が北海道大学医学部の卒業生に期待しているのは、「我が国の医療を支える指導的な臨床医」になることであり、「医学の将来を担う第一級の研究者」として活躍することです。北海道大学で学んだことを誇りに、高い理想と大きな夢を掲げ、その実現に向かって、急ぐことなく、しかし休むことなく前進して行ってください。そして、ともに医学を学んだ級友と母校を大切にしてください。皆さんが医師、医学研究者として末永く健康で活躍されることを祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とします。

平成29年3月23日

北海道大学医学部長 笠原正典